

## 日本災害看護学会 先遣隊活動報告

### 4月16日（土）の活動

活動者：山崎達枝・西上あゆみ・末永陽子

#### 1. 状況概観

4月14日に発生した平成28年熊本地震（M6.5）は震度7を記録し、その後も度重なる激しい余震が相次ぎ、熊本県内では一連の地震で死者は41名にのぼった。16日の未明に震度6強（M7.3）と震度6強（M5.8）の地震が発生し、脆弱な建物を崩壊させ、山崩れを引き起こした。短期間に大きな地震が頻発し、一度は避難所から減っていた避難者数が、再び増加するという状況となった。

先遣隊3名は博多で合流し、レンタカーで現地に向かった。途中、道路の陥没・液状化・マンホールの持ち上がりや渋滞に巻き込まれたが、下記のような活動を行った。

#### 2. 行程ならびに訪問先

4月16日6:00 山崎・西上：大阪から博多へ移動

4月16日9:00 山崎・西上・末永：レンタカーにて被災地へ移動  
(途中で被災地のための差し入れ物品購入)

4月16日14:40～16:00 熊本県看護協会訪問

4月16日16:15～17:15 益城町避難所訪問（保健福祉センター）

4月16日 玉名市内ホテル宿泊

#### 3. 活動内容

##### 1) 携行物資の準備

テレビ報道では、オムツや生理用品などの生活用品が避難所に配布されている様子があったが、訪問時の差し入れになるように大人用オムツ、子供用オムツ、生理用品、お茶、水、タオル等を購入した。

##### 2) 訪問先の状況

###### (1) 熊本県看護協会

訪問時は、会長を筆頭に数名の職員で、災害支援ナース派遣を17日から益城町避難所に派遣するために、災害支援ナース登録者への連絡や車両の運転手の確保などを行っていた。報道によると4月14日地震発生以降、1週間は大きな余震が来るといわれていたため、覚悟していたが、16日1時頃に大きな地震が起き、前晩よりもひどい地震を経験した。4月15日以降、日本看護協会を筆頭に各看護協会や関係者からお見舞いの連絡を頂いていると感謝されていた。

熊本県看護協会では、震災前に県との協定を結んでおり、今回、益城町の保健師と避難者支援をすることを決定した。現在、日本看護協会が設定している災害支援の対応区分レベル1で対応可能と考えているとのことであった。

熊本県には130名以上の災害支援ナースの登録があり、きちんと研修を受けている看護師の派遣をしたいと考えている。一方、災害支援ナースが所属する病院施設も被害を受け、被災者を受け入れることに忙しく、災害支援ナースの派遣が難しくなることも捉えられていた。

益城町は11の避難所があると言われているが、6から8カ所程度に対して、益城町の保健師とともに活動する災害支援ナース派遣を考えている。避難所に滞在できる支援ナースを派遣したいとは思っているが、状況に応じて避難所を巡回式になるかもしれない。災害支援ナース派遣時には、最初に県看護協会に集合してもらい、県看護協会から手配した車で避難所に送る予定である。

訪問時は土曜日であることに加えて、県看護協会も震災により建物内の物品が散乱、断水によりトイレも使用できない状況、その中で、会長を中心に職員が支援ナース派遣の準備をしていた。この職員達も夜には自宅に帰るとのことであったが、自宅も被災している中で作業を実施されていた。

## (2) 益城町避難所訪問

### ①DMAT 看護師からの情報

医師1名、看護師2名、ロジ1名で、本日から17日9時までの活動

### ②JMAT 看護師と医師からの情報

医師1名、看護師2名、薬剤師1名、ロジ1名。

対応：避難所内に救護所を設営し、糖尿病や血圧の常備薬を持ち出せなかった等を含めて、新たな処方希望する被災者に対応している。現在は5日分を処方している。子供の脱水、頭痛、外傷の手当て等々にも対応している。支給されている食事はおにぎりとパン。

## 4. 生活と健康状況

避難所となっている施設の軒下にも多数の家族が避難している。施設内では、下駄箱やトイレの前、廊下など階段以外の平らなスペースに、人々は横になっている。敷物はマット・段ボール・毛布など。避難所の屋外に設置された仮設トイレの横に高齢者が毛布に包まっており、横には車いすが置かれていた。また被災者の方の中には、夜は車の中で過ごしている人もいる。施設内のトイレ、ならびに施設外の簡易トイレもきれいであった。訪問時は全館停電していたが、自衛隊による発電準備が開始された。

医療派遣チームが活動に向けた準備物品は外傷への対応と睡眠導入剤・安定剤などを沢山準備してきたが、常備薬がないという被災者が多かった。土・日曜日であったために、人の手配ができ活動につながったが、これが平日であったなら活動は厳しく、月曜日から避難所での活動は難しい（看護師2名は認定看護師のために土・日曜日に活動ができる）。看護師として被災者の生活支援など、一人ひとりに関わりたいと思っている。

この避難所では衛生材料の支援物資は足りている様子であったが、看護師の話では、避難所によっては支援物資には格差があるということであった。

その他、道路は陥没・液状化・マンホールの持ち上がり等の状況が在り、日中に移動することが必要。道路の渋滞、頻回な余震もあることから、安全にも配慮必要。

## 5. 明日の活動に向けて

前述の状況から、明日（17日）は他の避難所を回ることにする。また、避難所の屋外に設置された仮設トイレの横に高齢者が毛布に包まっている状況もあり、福祉避難所の立ち上げについて、明日確認することとした。